
君と越えるモノ

GARAM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と越えるモノ

【Nコード】

N2675C

【作者名】

G A R A M

【あらすじ】

4人姉弟の末っ子、匠の大恋愛のお話♪

第1話 不思議な夢

白い大きめのセーター
黒いロングスカート
顔はわからない
どこかの部屋で
楽しげに話をしてる
俺も…笑ってる

？
【ん？…ああ…またか…何なんだ？あの夢】

そして彼は目が覚める…時間は朝の6時

？
『匠へたくみ』早く朝シャン浴びて用意になって』

匠『ふあ…はいはい』

→

超低血圧

匠【「まったく、朝からうるせえなあ」】

彼の名前は姫内 匠へひめうち たくみ〱高校1年生

起こしに来た女性は姫内 蓮へひめうち れん〱高校3年生、彼女は一卵性双生児でもう1人の方は姫内 蘭へひめうち らん〱蘭の方が姉だ

キッチンで忙しそうにご飯の料理をしているのは姫内 麗へひめうち れい〱大学2年生長女で責任感が強い

姉弟順に言うとき 麗 蘭 蓮 匠だ

この家に両親は居なく4人姉弟で住んでいる、別に死んだ訳じゃない、どちらも社長で家に帰ってこないってだけ、仕送りが来るし普通に暮らせる

匠『ふああ…ねみい…風呂お…』

ついでに長女麗は父親に似ていて大人しく美人顔で次女三女は母親似で可愛い系の顔、匠は美男子とも可愛い男の子ともとれる顔だ、可愛く見えるのは幼さがあるからだ

匠『あゝ気持ちいい』

蘭『早く出ないと遅刻するよお？』

匠『わかったあ』

『ふう…』

【時期は冬、朝シャン寒いだろ！？って思うだろうけど姉貴達が先に使ってるから俺がバスルームに行く頃にはあったかだ】

『いただきます』

『行ってきまあす』

『いってらっしゃい』

【やっとうるさい2匹が出ていったか…】

『匠戸締めまりよろしく』

『はいよ』

『じゃ私も行ってきます』

『いってらっしゃい』

【ふう…また暇な1日が始まったなあ】

『ご馳走様』

【戸締まりよしと】

『行ってきます』

誰も居なくなった空間にそう言い放つと彼は家を出た

『匠おせえよ!』

『わりい』

匠に怒った相手は匠と同じ幼稚園、小学校、中学校、高校と一緒に
山里 輝へやまざと あきら／＼顔は男の俺から見ても超美形の男前
で時間に厳しい

『3分遅れただけなんだから勘弁してちょ？ 10分前行動してんだ
し…』

『甘い！時間は正確に！10分前行動だ！』

『わかったよ』

俺達の地元の駅は終点だから電車はガラガライイ所を陣取り一つ目
の駅に着く

『おっはよお♪』

『相変わらず元気だなあ』

『全くだ』

『人生短いんだから元気に行かんとね♪』

【こいつの名前は原田 周へはらだ しゅう／＼顔は結構男前、性格は一言で言うとお超女たらし、ついでに輝は超一途、俺は軽い女性恐怖症だ、姉貴とかは大丈夫なんだけどな女性恐怖症になった理由？
…また気が向いたらね】

輝『あと30分ってどこか』

匠『だな』

周『おっ！可愛い子発見♪』

匠『ったく…』

輝『他人のフリ他人のフリ』

匠『俺も…』

周『へえ〜月へるな〜ちゃんと茨へさや〜ちゃんって言うんだ♪俺の名前は周だよん♪よろしく♪んで』

匠【あゝ嫌な予感】

輝【ふってきたらアイツ後で殺す】

周『あっちに居るのは俺の友達♪』

匠【言いやがったよ】

輝【殺】

周『右が姫内 匠で

左が山里 輝

って言うんだ♪

匠、輝、

右が神流 月へかなるな〈ちゃん

左が八神 莢へやがみ さや〈ちゃん♪』

匠【いや興味ないし】

輝【死】

莢『そうなんですか♪』

周【莢ちゃん乗り気だけど月ちゃん引き気味…男性恐怖症？】

周 『ねえ？月ちゃん？』

月 『ひっ…』

莢 『あつごめん！この子男の子ダメなの…』

周 【やっぱり】

周 『そか、残念』

第2話 バカな周

なんだかんだ周が話してる内に彼らの降りる駅に着いた

周『あっもうか…残念…メアド交換しない?』

莢『あっ喜んで♪』

プシュ

周『じゃあね♪』

莢『バイバイ♪』

匠【まっこの後周が輝にボコられたのは言うまでもないな】

周 『うゝブツ事無いちゃん…』

輝 『じゃあ死ぬ？♪』

周 『ごめんなさい…』

匠 『なあバスケの試合いつだっけ？』

輝 『来週の日曜だぜ』

周 『ぜってえ優勝だ！あっ輝』

輝 『ん？』

周 『日曜逢えないと陽へよう／＼ちゃん悲しグフツ』

輝『で？』

周『いえ何も…』

輝『それでいい』

匠【陽ちゃんは輝の彼女で私立に行ってるし部活あるから週に一回日曜にあってるらしい】

周『やっと着いたぜい♪』

匠『たかだか5分歩いただけだろうが』

周『疲れたよう…輝パパぁ♪』

輝 『死ぬ？』

周 『匠マ、グフツ』

匠 『他界に逝くか？』

周 『アメリカンジョーク♪』

匠 & a m p ; 輝 ギロツ

周 『ごめんちゃい♪』

匠 & a m p ; 輝 『ったく』

匠『ふう』

輝『ねみい』

周『子守歌唄ってあげ、グフッ』

匠『お前も飽きないな…』

輝『てかしつこい、寝ろ』

周『ぢゃぁ子守歌唄グフッ』

匠『死ね』

輝『うん死ね』

周『うゝナイス突き』

匠『んですぐ寝れるのがすげえ』

輝『全くだ、じゃおやすみ』

匠『おやすみ…』

…コーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン…

匠『ん?』

【12時半か…昼飯だな】

伸びをし後ろの席の輝、右斜め後ろの周を起こす

匠『輝、飯だ』

輝『ん、わかったあ』

匠【眠気まなこだけど輝ら相変わらず寝起きイイな…問題は…】

匠& a m p、輝『はあ…』

匠『しゃあねえ…やるか』

輝『ああ』

2人で周を揺さぶりながら

匠『周！起きろ！飯だ！』

輝『おい！周！』

繰り返すこと10分…

周『ふああ…：おはよ…ん？、
なんで2人ともバテバテ？』

匠&輝『死ね』

周『え！？うわあっ』

ドス、グフツ
バキ、ガフツ
ボコ、グハツ

匠&a m p.;輝『ふう…』

周
プシュ

輝『飯』

匠『屋上行こうぜ』

輝『おっけい、周早くこいよ』

周『はいなあ』

第3話 心の傷

俺達3人は今屋上への最後の階段を上った

匠『ふう』

輝『やっと飯〜』

周『ポンポン痛いよ輝パ、グフツ』

匠『便所行け』

周『はい…』

トイレに走る周

匠【つつく】

輝『なあ、匠』

匠『ん？』

輝『俺達ガキの頃からの親友じゃん？でもお前が女性恐怖症の理由聞いたことないんだけど？確か中2の終わり辺りからだったよな？』

匠『…ああ…』

輝『何が…あったんだよ？』

匠『ふう…お前に言ってなかったけど…中2の時大学1年の家庭教師と付き合ってた』

輝『泪へるいゝさん…だっけ?』

輝【確か死んだんだっけ…付き合ってたのか…】

匠『うん…』

輝『…そっか…恐いって言ってたもんな…』

匠『…もう嫌だからな…』

匠【…もう…大切なモノを失いたくないよ…】

周『たっ…』

周【空気重っ!】

輝『でもさっ人って傷付いて傷付いてそのたびに強くなるもんじゃない？』

匠『傷付くのが怖いんだ…涙が死んだ後忘れるために何度か恋愛したけど、怖くて好きになれない、付き合ったら相手の短所ばかりみて、好きなフリして、最低だな…俺…』

周『傷付かない恋なんてあるのかな？』

匠『周…』

輝『傷付くのも醍醐味だよ…辛いけどね…頑張れ、癒せないくらい深い傷ならみんなで分け合えばいい、勇気が足りないならみんなで出し合えばいい、それが仲間…だろ？』

周『格好いい輝パパあ♪』

匠『馬鹿、サンキュー、頑張るかな』

周『おうよ!』

キンコーンカーンコーンキンコーンカーンコーン…

輝『予鈴だ、引き上げるぞ』

匠『俺ちよいここにいるわ』

輝『わかった』

周『また後で♪』

匠『うん』

匠【2人が屋上から出ていく音が聞こえる】

匠『寝よ』

泪『へえ〜匠君モテるんだ』

匠『興味ないんだけどね』

泪『あららその子達可哀想に』

匠『…泪さんは…彼氏とか好きな人居るの?』

泪『残念ながら匠君と違ってモテないから居ません』

匠『そうなんだ、あのさ…俺…』

匠『俺じゃ…ダメ…かな?…』

泪『えっ?…』

泪『こらこら大人をおちよくらないの』

匠『本気だよ…』

泪『ありがと…私も…』

好き

匠『はあはあ何だよ…くそ』

匠【泪さん…か…たった…10日の恋だったもんな…今までで最高の思い出だけだね…】

匠『回想なんてらしくねっ3時か、教室帰ったら丁度帰りのHR始まるくらいだな、よし』

屋上を出ようとした匠の頬を寂しげな風が屋上へと通り抜ける…頬に何かを感じながら彼は振り返り誰も居なくなった屋上に

匠『ありがとう』

と呟いた…

第4話 カラオケ

輝『匠、寝てたのか？』

匠『おう』

輝『ったく、寝過ぎだぞ』

匠『悪い悪い』

先生『はい、みんな席に着いて』

先生『匠は少し残るように、特に連絡ないから解散』

匠『すいません寝てましたあ』

先生『そうか、成績に響くから気をつけるように』

匠『はい』

輝『終わった？』

匠『おう』

周『じゃ帰るかあ』

周『ん』

輝『なんだ？周？キョロキョロして』

周『ん？まあいろいろね』

匠&a m p.;輝『?』

?
『い』

匠&a m p.;輝&a m p.;周『ん?』

莢『ごめん周♪まった?』

匠&a m p.;輝【呼び捨て!?】

周『イイよん♪月ちゃんは?』

莢『トイレ、5人でカラオケ楽しみたい♪』

周『だね♪』

匠& a m p.; 輝【はい? …… あっ】

ジェスチャーで

周 イイちゃん♪

匠 まだ無理だって

輝 死ね

周 お願い♪

匠 輝に任せる

輝 おごりな

周 おっけい

匠【これだけの動作を莢ちゃんに見つからずに出来る俺達ってある意味天才？】

月『莢ごめ、あっ』

匠【「!」…顔アツツ】

輝『匠？』

匠『えっ?』

輝【ん?...動揺?...あっ、さては...】

輝『ごめん俺用事あるから』

匠『ええ!』

輝【わかりやすい奴め...楽しい♪】

Sツ
気あり →

輝『ごめんな、じゃっ』

周&p;莢『ばあい♪』

匠【えっなんで？今日は3人とも暇なはずのに？…急用？】

→

超鈍い

輝『じゃっカラオケ行きますかぁ♪』

莢『だね♪』

と言うわけで一行はカラオケに着きました

匠【歌える訳ねえ！】

周『一番！匠と一緒に青春アオーゴ行きまあす♪』

匠【悪ノリ来たあ！！！！】

匠『まっ…』

匠【始まっちゃったよおい！】

匠【歌い始めると案外普通に歌えるな…】

莢『うまあい♪』

莢『じゃっ次は月と一緒にZONE君がくれたものの歌いまあす♪』

周『イエイ♪』

そんなノリが続くこと3時間…

莢『時間じゃん!』

周『延長する?』

匠『また今度でいいでしょ?』

莢『じゃっ解散の前にメアド交換タイム♪』

周『イエエイ♪』

匠【もうこのテンションいやあ…】

その後メアド交換し解散

周『月ちゃんに興味あり?』

匠『ぶっ、はい？』

ついでに彼らは今帰りの電車だ

周『隠すことないじゃん？』

匠『わかんねえ…心が開かないから…まだ傷付くの怖がってるみてえ…』

周『まっそんなすぐにはなあ…ただ』

匠『ただ？』

周『心を開かない限り恋愛は出来ないな、心を開かないって事は心を殺すって事だ相手を愛する気持ちは心、だから心を開かないと人

を愛せない、そんな状態で付き合ったら相手を酷く傷付ける事しか出来ないぜ？』

匠『うん…』

周『まっ頑張りなっと降りる駅だ、じゃな』

匠『またな』

匠『ふう』

匠【好きって気持ち…か…それ自体解らなくなってるんだよな…】
匠『ただいま』

麗『おかえり、遅かったのね』

匠『友達とカラオケ行ってたんだ』

麗『そう、あと少して晩御飯だから蘭と蓮を呼んできておいて』

匠『わかった』

匠【2人は恋愛経験豊富だし相談…出きるわけないなうん…】

コンコン

蓮『Who?』

蘭『アハハそれイイ!』

中から笑い声が響く

匠【しょうもな…】

匠『後場だってさ』

蘭& a m p; 蓮『わかったあ』

匠【ったく】

みんなとご飯をした後匠は部屋で1人想いふけていた

匠【今のハンパな気持ちじゃ相手を傷つけることしか出来ない…か
…】

匠【月ちゃんを独り占めしたい…月ちゃんにずっと隣に居て欲しい
…】

匠【そう想ってる…それは〈好き〉ってことじゃないのかな？…】

匠【知らない内に心が開いた…のかな？…】

匠【でも違ったら相手を酷く傷付けるんだよな…】

匠【傷付くのも傷付けるのも…怖い…嫌だ…】

匠【今日はもう寝よう…】

第5話 月の過去…

月【はあ…私は今莢ちゃんと帰路に着いてます…それだけだとい
んですが…質問責めにあってます…】

莢『ねっあの3人レベル高いよねえ、ねっ誰が好み？』

月『顔じゃないと思うけど？』

莢『ええ〜顔も大切だよお…ん〜まっ性格ふまえてもやっぱ周君か
なあ♪』

月『えゝ』

月【何故？…遊んでますオーラ満開だったよ？…莢ちゃんも遊んで
るか…】

莢『…月もさ…昔の事忘れて恋愛しなよ…』

莢【何言ってんだろあたし…月の過去知ってて…でも…幸せになつて欲しいからだよ?…】

月『…うん…ありがと…』

月【4月27日…それはこの世で一番嫌いな日…私の…妹が死んだ日…私達姉妹は捨てられた…私が1歳と3ヶ月で妹は生後2ヶ月だった…その後はお決まりのコース…親戚の家をたらい回し…酷い仕打ち…私の体はそんな傷だらけ…私は耐えた…だけど…妹は耐えられなかった…不良になり…妹が13歳の4月24日に家出した…妹は3日後自殺…自殺理由は…集団レイプ…犯人は捕まった…15歳の少年8人…レイプ理由は興味本意…でも反省してます…そんな理由で私の妹を自殺にまで追いこんだの?…反省なんてしてないじゃない……だけど…少年法に護られた…何故?…釈放されたとき薄笑いしてたのに?…確かに妹は色々バカやってた…だけど私には大切なたった1人の肉親だった…赦せない……だけど…何もできない……そんな自分に…腹が立つ…その日から私は…男が…いや…そこからつい最近まで人が信じられなくなった…闇から出してくれたのは莢ちゃん…でも…まだ男は怖いよ…】

莢『月？…ごめん…余計な事思い出させて…』

月『ううん…イイの…泣いても…妹は返ってこないのにね…泣いて返ってくるんじゃないくらいでも泣くのにな…』

莢【私は…神を憎む、怨む、呪う…まだ16歳だよ？…初めて月に会った時…その時の…月の眼…温かさが微塵も感じれない眼…映るのは…悲しさ…苦しさ…寂しさ…切なさ…辛さ…とても淋しい眼…神が居るとしたなら…貴様はくそつたれだな！…月は…親に捨てられたんだよ？…もうそれだけでイイじゃんか…なんで…なんで最愛の妹まで奪うんだ！…なんで淋しい思いばかりさせるんだ！…なんで…そんなに虐めるんだ？…心も体も…もうボロボロなんだよ？…これ以上虐めないであげてよ…】

月『ごめんね…莢ちゃんまで泣かせて…』

莢『謝らなくてイイよ』

月『私…生きてる意味あるのかな？…』

パンツ

莢『バカ！！…望まれずに…望まれずに生まれてくる子なんか居ないんだよ！？…それだけは言っちゃダメなんだよ！？…無責任な言い方だけど…生きてたらイイ事あるよ…1人じゃ見つけれられないならあたしも一緒に路を歩いてやるから…そんなの言わないでよ…』

莢【ここまで虐めて！！…私は神を心底軽薄する…神程愚かな奴は居ない！…】

月『ありがとう…』

月【そうだよね…きっと1人じゃ路が真っ暗で進めない…でも…私を想ってくれる人が必ず路を照らしてくれるよね…私はもう決して折れないよ…何故なら…私を照らしてくれそうな男性へひとゝを見つけたから…】

第6話 告白

匠【月と出逢って1ヶ月が経った、呼び捨てだからって付き合ってる訳じゃない…ただ…親しくなった、月もちゃんと話してくれるようになった、俺は月が好きだ、隣に居て欲しい、月を独り占めしたいって事は好きなんだって思う、恥ずかしいから輝達には相談してないけど…】

輝『…い…おい！匠！起きろ！』

匠『ん？…』

輝『珍しいな、匠がなかなか起きないなんて…何かあった？』

匠『後で話すよ』

輝『えっ…ああ』

匠『周は？』

輝『先に屋上行ってるよ』

匠『わかった、わりに行こ』

輝『ああ』

周『遅い！』

輝『いつも遅いお前が言うな』

周『一度言ってみたかったのさあ♪』

輝『あっそ』

周 『うう…』

輝 『じゃっ話してもらおうか？』

周 『何々？』

匠 『俺…月に告ることにするよ』

輝 『心開けたのか？』

匠 『ああ』

周 『イイ事ちゃん♪』

輝『そか…』

輝【あまり乗り気になれないな…顔に迷いがある】

輝『好きなのか？』

匠『ああ、好きだ』

輝【なんか引つかかる…なんだ？…】

輝『そうか…』

周『どうやって告る気？』

匠『メールにしょっかなって』

周 『ダメダメ！直に言わなくちゃ！』

匠 『ええ！無理だって！』

周 『いくじない』

匠 『うっ…』

周 『匠と言う人間を見失ったぞ！』

匠 『見損なったね』

周 『そう！それ！見損なったぞ！』

匠『わかったわかった…今日今度映画行かない？って誘うよ』

周『今！』

匠『はい…』

輝【やっぱりなんか変だ…匠が反論しない…】

周『なんて送るのさあ？』

匠『今度の休み一緒に映画見に行かない？って』

周『よし送信だ！』

匠『あっ』

周『何？』

匠『送ったと同時にメールだ…』

周『誰？』

ボフツ

周『匠？顔真っ赤だぞ？？』

周『さては月ちゃんか！？』

ボフツ

周『なんて??.』

携帯を周に向ける

周『何々…へ付き合って下さい!返事はいつでも構いません…あらら…先言われてるし』

匠『どうしよう?』

周『両想いって事ちゃん♪おめでと♪』

匠『ありがと…』

周『なんて送るのさあ♪?』

匠『俺も好きでした、喜んで♪これからもよろしく』

周『イイねえ♪GO♪GO♪』

数分後…

月『断られると想ってました…とても嬉しいです♪こちらこそ宜しくお願いします！映画も誘ってくれてありがとうございます♪』

匠『こっちも嬉しかった♪映画楽しみにしてます♪』

第7話 デート

匠【あっと言う間にデート当日になった、初デート…緊張するなあ…待たせたら死刑だ！って輝に言われてたせいで約束の時間の30分前に着いちゃったよ…】

月【朝からドタバタしないように昨晚から用意しておいて来たら30分早く着いちゃった…】

匠&月『はあ…待つってドキドキするなあ…』

匠&月『えっっ！?!?!?』

実は待ち合わせ場所はある公園の大きな時計台の下

時計台を挟んで背中合わせ状態だったのだ

アタフタする2人

ついでに2人とも昨日寝る直前まで今日の事、計画などを立てていたがパニックってます笑

匠『えっと…とにかく映画館に向かおうか』

月『うん、どんな映画観るの?』

匠『周が面白いからって教えてくれた映画で名前は〈LOVER〉だっさ』

匠【アイツ絶対名前だけで選んだな…】

月『ジャンルはラブストーリーかな?』

匠『多分…』

月『あっ見えてきたよ!』

匠『上映はちょうど10分後か、ポップコーンとか買って向かおうか』

月『うん♪』

今日はテスト最終日、つまり平日なので結構すいていていい席を取れた2人は意気揚々と部屋に入った

2人が席に着くと上映中のマナーが始まった

匠【つと携帯マナーにしとかなきゃな…】

1時間後…

彼らは映画館ではなく病院に居た…

病室に寝ているのは月だ

ガチャッ

莢『月!?!』

匠『大丈夫…寝てるよ…』

莢 ホッ…キリッ

パンツ

莢『…何した?…』

匠『…こっちが聴きたいよ…』

莢『じゃあ質問変える、何があった？』

匠『周の勧めで〈LOVER〉って映画を見てたら途中で月が倒れた』

莢『…どんな映画？…』

匠『全部観た訳じゃないけど大体のあらすじは父子持ちの妻が不倫をするんだけど途中で愚かさに気付いて不倫を止めて平和な家族を築く話ってとこかな』

莢『…どんなところで倒れた？…』

匠『妻が不倫相手に別れを告げて逆上した不倫相手がレイプしようとしたとき』

莢『バカぢゃない！？なんでそんな低俗な映画！』

匠『確かに人のこと鵜呑みにした俺がバカだった…ごめん…』

莢『あたしに謝ってもしょうがないし…』

月『んゝ…』

匠『あっ大丈夫』

月『嫌！…来ないで！…』

匠『えっ………』

莢『ごめん…後で話すから』

匠『ああ…』

ガチャ

月『嫌!…やめて!…来ないで!…嫌だよ…』

莢『月…大丈夫…大丈夫だから…落ち着いて…私以外居ないから…』

月『うつ…うつ…ひつく…』

莢『ほら、あたしが居てやるから寝な…』

月『うん…』

匠は部屋の外で1人うずくまっていた…

30分くらいすると部屋から莢が顔を出した

第8話 決意

莢『おいで』

匠『月に一体何があったんだ？』

莢『これはあたしが言うべき事じゃないんだけどね…月の過去について聞いたことある？』

匠『ない』

莢【まっ聞いても話さないか嘘つくかだろうね…】

莢『話してやるよ…月の過去を…』

匠『…そんな…』

莢『あんたも初めて会った時淋しい眼をしてたから辛い過去を持ってるだろうけどね、月の淋しい眼はあんたの淋しい眼の何倍も暗かったよ…』

匠【だからか…自分と同じ感じがしたから…だから心を閉じててもひかれたんだ…重さは全然違うけど…】

匠『強いな…』

莢『?』

匠『俺より全然強いよ、俺なんか吊り合わない』

匠【違う！…】

匠『俺なんかいても弱くなるだけだよ…』

匠【こんなのが言いたいんじゃない！…】

匠『別れるわ…月の為にならないよ…』

匠【違う！…月に…月に合うくらい強い奴になってやるって…そう言いたいのに…心が邪魔をする…なんて臆病なんだ…】

莢『出ていきな！あんたみたいな腰抜けは確かに月には合わないよ！』

匠『…』

ガチャ

莪『ふう…大丈夫だよ…月…きっと…ううん…必ず…アイツは戻ってくる…何倍もイイ男になってね…』

輝&a m p;周『匠!』

匠『…輝あ…周う…』

輝『どうしたんだ? 何があった?』

匠『俺…情けねえ…臆病なのこの上ねえ…傷つきたくないからって…現実から逃げて…言いたいこと一つも言えなかった…』

輝『おい！匠！しっかりしろよ！何があっただ？』

匠『今日…』

匠は今日の出来事をそして自分の言いたかった事を2人に話した

周『ごめんなあ…匠い…俺が軽い気持ちで選んだ映画のせいで…こんな…』

匠『お前のせいじゃない…どうせ心を開けてなかったんだ…』

輝『匠、こんなところで諦めねえよな！？』

輝『強い男になるんだよな！？』

匠『なりたい…』

輝『聴こえねえぞ？』

匠『俺は…強い男になりたい！いや、なるんだ！』

輝『それでこそ匠だ！一緒に3人で頑張ろうぜ！』

匠【俺は決意した！今度は確かな決意だ！強くなる！んで月を迎えに行く！】

最終話 みんな幸せ♪

匠【強くなる！…そう決意して…2年が経った…】

匠【俺にも辛い過去があった…でも月に比べれば大した事無かった…肉親も居るし生活も裕福だ…後で知ったが月は自分のおじいちゃんに遺してくれた少しの遺産と家で1人暮らししていたらしい…ホントに強いな…】

匠【2年前は重さは違っても同じ苦しみを知っているからひかれた？…なんて想ってたけど…間違いだ！月とならんでも乗り越えられる気がしたからだ！って胸張って言える】

月【彼と別れて2年になる…莢ちゃんが『アイツは必ず強くなって帰ってくる！したら2人で路歩け！それまではあたしが照らしてやる！』ってそう言ってくれたから今なを彼を待っている】

月【後から知ったけど彼も中2年の時付き合っていた大学1年生の

人を無くし女性恐怖症になってたとか、だからひかれたのかな？同じ苦しみを味わった人は一目見ればわかるって言うし…】

月【ううん…違う…彼は根が強いって私気付いてた！今なら言える！貴方を愛してる】

周『匠！わかったぜ！例のん』

輝『ナイス！』

匠『何日？』

周『3月14日だってよ、俺達13日だから大丈夫だぜ！』

周『あっ後、莢から伝言』

匠『大体想像付くなあ笑、なんて?』

周『おっせーんだよ! バカやろう! 次に月泣かしたら覚悟しとけよ! だってさ♪笑』

輝『間違いなく殺されるだろうな笑』

匠『遅れたのは謝る! 悪かった! でも泣かす事は絶対ねえ! って言っ
つといてくれ』

周『おっけい♪』

匠『しゃあ! 明後日はサプライズだあ!』

輝『サプライズは静かに用意するもんだろ笑』

匠『まあな笑』

匠【ついでと言っではなんだが

輝と陽ちゃんは今でも相変わらずのラブラブで卒業後は共働きして金貯めて金が十分貯まったら結婚するらしい

周は莢ちゃんと付き合っていて驚くことに周が！あの周が莢ちゃん以外の女の子との関係から連絡法まで全て切ったのだ！つまり周のアド帳の女の子は莢ちゃんとは母親などだけ！驚きだ…】

3月13日

匠【俺達の卒業式だ

俺は設計会社

輝は電気会社

周は建設会社

に入社した】

匠【夢はみんなで家を建てることだ】

匠【卒業式が終わりみんな自分達の未来を目指し路を歩いていく、俺はまだ歩けない…何故なら…やってないことがあるからだ！】

3月14日

月【私達は卒業式を迎えた、一昨日莢ちゃんが携帯を見て私を見てニヤニヤしていた、何があったんだろう？そこから莢ちゃんの様子がおかしい、何考えてるのかな？】

月【長かった学生生活が終わりを告げた…見慣れた校舎…見慣れた顔ぶれ…みんな…みんなイイ思い出だ…】

月【私は卒業したら介護の道に進む莢ちゃんは医者、夢は2人で老人をタダで介護して健康診断する病院を造ること】

月【あゝあ…高校3年間…あつと言う間…とは言えないけどやっぱ短かったな…この後は莢ちゃんの家で卒業パーティーだ♪】

莢『月、行くよ♪』

月『うん!』

月【歩くこと10分、莢ちゃんの家に着いた、家族は今誰も居ないのでパーティーやりたい放題らしい】

莢『あっコンビニでジュース買ってくるから先家入っというて』

月『わかったあ』

カチャンッ

ガチャ

月【えっ眩しい】

?
『月!』

月『誰?』

月【逆光で黒のシルエットにしか見えない…】

パチンッ

月【ライトが消えた…でもまだ目がチカチカしてよく見えない…誰なのかな?】

? 『やっぱ声だけじゃわかんないか』

？『大変遅れました…お迎えに上がりましたよ、月♪』

月『えっ』

月【今もまだ…覚えてる…優しい彼の声…私に光を与えてくれる…】

月『匠…バカ…』

駆け出し匠の胸にうずくまり泣き出す月

匠『よしよし、悪かったな…遅れて…泣くなよ、可愛い顔が台無しだぜ？』

月『…逢いたかったよ…』

匠『俺もだ…もう絶対何があろうと離さねえからさ！覚悟し、ゴフッ』

莢『馬鹿ね、泣かせないって約束だったのに泣かせて♪笑』

匠『いや！感動の涙は、ゴフアッ』

莢『男は言い訳しない！』

匠『はい…』

月『えっ莢ちゃん知ってたの！？』

莢『勿論♪』

月『もお』

匠『しゃあ！みんな！パーティーだあ！！』

みんな『いええい！』

匠&p;月【やっと逢えた…もう…2度と離れない…離さない…これから2人で路を歩んで行くんだ！♪】

10年後

陽『輝さん、朝ですよ』

輝『ん』

陽『ご飯も出来てますよ、泰へひろし』と咲へさき』も待ってますので』

輝『はいよお』

輝【俺と陽は2児の父、母になった。上は泰、男の子で8歳、下は咲、女の子で5歳だ。可愛い何の♪】

莢『おら！起きろ！周！』

周『イッテエエ！！朝からなんて起こし方だ！』

莢『周が起きねえからだろ！』

？『はあ…あつ皆さんこんにちは！僕は暁へあきら／＼今6歳です！お父さんとお母さんはいつも喧嘩腰の会話ですがこれが仲のイイ証拠なんです！』

蘭& a m p; 蓮『イエイ♪私らの事忘れてないよねえ？ん／＼？テメエら結婚出来てんのか？って思ってる奴居るだろうが…エリート捕まえたぜイエエイ♪それも向こうも一卵性双生児だぜイエエイ♪』

麗『こんにちは、蘭、蓮、匠の姉の麗です。覚えてくれてましたか？私は代々一族が医者と言う家系に嫁入りました。幸せですよ』

月『義へつとむ／＼来へらい／＼仁へひとし／＼3人で頑張ってパパ起こ

してえ』

義&a m p.;来&a m p.;仁『はあい』

月【私は3児の母となった。上の子、義は男の子で8歳、中の子、来は女の子で7歳、下の子、仁は男の子で6歳、と年子3連発だ笑】

匠『ふああ…おはよう…おっ白のセーターに黒のロンスカ!きやわいい♪』

匠【昔見た夢はこの場面だったんだな】

月&a m p.;義&a m p.;来&a m p.;仁『はいはい』

月【大きい子供も元気に働いてくれる】

義&a m p.;来&a m p.;仁『あつバス来たあ』

月『はあい』

義&a m p.;来&a m p.;仁『いってきまあす』

月『いってらっしゃい♪』

月『おはよ♪匠』

匠『おはよ♪月』

C
H
U

月『我ながら新婚でもないのに朝っぱらからCHUってねえ』

匠『イイんじゃない？今子供いないし』

月『だね♪』

匠『うわ！もうこんな時間だ！じゃっ行ってくる！』

月『はあい♪』

匠『出勤前のCHU』

月『はいはい』

CHU

匠『いってきまあす』

月『ふう』

月【とまあこんな感じに少し照れくさいけどみんな元気で幸せです♪夢はまだ半ばだけど叶えれそう♪勿論、匠達もね♪】

匠『今日休みだったわ笑』

月『バカが帰ってきました…』

匠『おっ読者様今までありがとう御座いました♪』

月『もう言っただよ』

匠『マジ!?!くしょお…』

月『バカ…うふふ』

匠『アハハ』

匠【俺達は生きていく…そして…想っている…願っている…こんな日がずっと続きますように…人生の最後は笑って『あゝ疲れた…でも悔いがないや♪神様充実した一生をありがとう!』って言って死にたいな…なんてキャラに合わないなあ…まっイイか♪今まで本当に…】

みんな『ありがとう♪!』

君と越えるモノ

おわり♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2675c/>

君と越えるモノ

2010年10月8日22時44分発行